

2008年訪問活動概略

1月12日

・60代女性、長田区で全焼。周囲に揮発油類を扱う工場が多く、よく燃えた。着のみ着のまま避難し、何も持ち出せず、近所の人に靴下や靴を分けてもらった。お好み焼き屋をしており、材料を近所の人に分けたりして、食事には困らなかった。膝が悪く、避難所に入れず、当たった仮設住宅も遠いところで、民間のマンションに普段は住んで仮設住宅に通っていた。そのおかげで復興住宅に入居できた。

・50代女性、長田区で全壊。仮設住宅は不便なところしか当たらず、この復興住宅へ来るまで東へ東へと引っ越し。まだ若く同世代の人が少ないので、ふれあい喫茶には行かず、話し相手は隣近所。

・20代男性、長田区で全壊。震災の時は親にしがみついていた。避難所は在籍していた小学校。仮設住宅・復興住宅をと移るたびに、小学校も離れたところに転校を繰り返した。

1月28日

(記録なし)

2月9日

・70代男性、灘区で全壊。震災時奥さんが大腿骨骨折、その痛みでガンに気づかず手遅れとなり亡くなったことが悔やまれる。「自分は運の良い人間」と、震災で助かったことに感謝して、元気で前向きに、豊かな人生を送っている様子。

・70代男性、灘区で被災。震災時は自営業。ご主人の国民年金と奥さんの障害年金で生活。龍野に避難、西区の仮設住宅を経て、この復興住宅へは竣工時から入居。はじめは買い物に不便を感じたが今は大丈夫。重度障害の奥さんは目が離せないで、デイケアを受けている間にご主人自身の通院をされている。

・80代男性・70代女性夫婦、中央区で一部損壊。ご主人は定年まで会社勤めをしていた、まじめな人で、震災前後を通じて長く住んでいた公営住宅では自治会長をしていて、住民の仲も良かった。この復興住宅の間取り、特に台所の使い勝手の悪さが気になる。

・60代夫婦、北区で一部損壊。ご主人は20年来半身不随で、震災時は大事をとって一時避難所へ。永年住み慣れた場所では植木いじりをするなどしてリハビリになっていたが、2年前ここに来てからはあまり外出もしなくなった。

・70代女性、90代の夫と暮らす。西区の仮設住宅を経てシルバー枠でこの復興住宅へ入居。認知症気味ながら体力は依然あったご主人の介護をしてきたが、最近ご主人が体調を崩し入院、容態が心配される。仮設住宅の時、ご近所の方をよくお世話され、公的支援を求めて上京したことも。その頃の写真を大切にしており、同行したメンバーと久しぶりに再会、新たな参加者とともに記念写真を撮影。

2月23日

・60代男性、灘区で半壊。阪神高速道路のそばにある運送会社でリフトに乗っていたときに地

震に遭い、目の前の電柱が1m沈んだのを見た。震災の日の夜中になってやっと母を避難させ、以後遠方の避難先から、震災後何日も火の手が上がっていた長田区などを通して、被害を受けた会社の片付けに1月間通ったが、その間の給料は出なかった。避難所に物資を届けに行ったとき喜ばれたのがうれしかった。今身体は悪いところだらけで、特に永年の激務や事故のため腕の自由がきかず、あまり仕事はできない。

・60代男性、一人暮らし。震災時は単身赴任中で、奥さんが長田区で被災。赴任先から神戸に帰ったが、仕事のため間もなく赴任先へ。今は永年勤めた会社とは異業種の接客業に就いている。奥さんとは半年前に離婚。人に騙されたことも多かった。今は日々健康であればいい。これまでの仕事などから得た人生の教訓を、出勤前の限られた時間で語ってくださった。

・70代女性。「健康と思っていても一年ごとに薬の種類も多くなり…足腰が弱くなったらどうしようかナァと思うことがあります。特養にはいるには時間があるときいています。この待ち時間をどうするか、今の所不安な一点です」とご自身で記入された支援シートをもとにお話し伺い。ヘルパーに来てもらったことはない。その日その日をちゃんと生きられればいいと思うが、日々老化を実感し、かかりつけの医師・病院を決めなければと思っている。

・80代女性。被災後の避難生活や現在の家事などは娘さんがやってくれている。早寝を心がけ、身体は悪いところはない。買い物ぐらいしか外出はせず、近所づきあいほとんどしない。テレビを見たり編み物をしたり、好きなことをして過ごしている。

3月8日

・90代女性、東灘区で被災。心臓ペースメーカーを入れていて、歩くのも苦しいほどだが、ここは近くに病院があり、週2回ほどヘルパーさんが来てくれ、24時間体制で見守ってくれるので安心。

・80代女性、灘区で全壊。震災時、目を覚ますと壊れた天井から空が見えていた。動けなかったが近所の人が助け上げてくれた。家財を奪われたことから人間不信に。「何とかやっていけたらいいと思って…でももういい加減(お迎えに)来てもらわないと」と、くよくよしなないつもりでも不安になるときがあり、夜は精神安定剤がないと眠れない。週3回ヘルパー、週2回デイサービスを利用。

・80代男性、灘区で被災。「13年も放ったらかしにしといて、今頃何の用やねん」と言われたが、訪問活動の趣旨を説明しお話を伺う。震災時、近隣の人が避難する中、自身は親類に助け出されるまで4時間ほど冷蔵庫の下敷きになったままだった。このときからの人間不信のためか震災についてはこれ以上話さず。5年前交通事故に遭い、以来杖が必要になったが、3日間意識がなく傷だらけになりながらも骨折しなかったことに医者が不思議がった。少年時代から得意だった剣道や、戦時中軍需工場で厳しい監視下で危険な作業に携わったことなどのお話を伺う。

3月22日

・70代男性、灘区で全壊。三女の太ももに家の部材が刺さり、鋸で切って3時間後に救出。手術まで1ヶ月待たされ、3ヶ月後に退院できたときはうれしかった。家族で入った避難所の小学校の廊下が狭く寒かったため、落ち着かなかった。西区の仮設住宅、大阪の文化住宅に入ってから生活がたいへんで、毎日苦勞の連続だった。広い部屋で隣近所ともうまくいっているの

で、この復興住宅に入居できてよかった。3年前に奥さんを亡くしたとき150人もの人が来てくれ、そのときの写真集を見せていただいた。

・女性、長田区で全壊。西区の仮設住宅を経て、この復興住宅に入居して10年目。目が不自由で、白内障の手術をしたばかり。

・60代男性、一人暮らし。震災時は三田市在住で被害はなかったが、道路が壊れ物資の支援が大変だった。若い頃は土木工事で激しい仕事をしてきた。今は肺が悪いのが気になる。遠くに行くと息切れするので車いすを利用。時々淋しくなるので茶飲み友達が欲しい。楽しくいろいろな話しをされ、初参加の大学生を励ましてくださった。

・80代女性、一人暮らし、東灘区で被災。スポーツが得意だった少女時代、結婚後間もなく日中戦争となり、身重の奥さんを残して応召したご主人が太平洋戦争で戦死したため短かった結婚生活、店を焼かれた神戸空襲、戦後の食糧難…。辛く苦しかったことも語るなかで表情は明るくなっていった。前回訪問時留守だったため再訪問の要請を受けてお話し伺い。

・70代男性、一人暮らし、中央区で被災。震災時、スーパーから食料がなくなっていて、液状化現象で噴出した泥水の中を長靴で歩いて水をもらいに行った。娘夫婦が宝塚から歩いて食料と電気コンロをもってきてくれた。奥さんの上にテレビが落ち、胸が痛くなったが、1月後まで医者に診てもらえなかったことが災いしてか、病状が悪化し1年ほどで亡くなった。内装工事の仕事をしていたが、震災で仕事がなくなり、「震災で(人生が)ころっと変わってしまった」。生きる意欲をなくしたところから立ち上がって、新たな生活を始めたところ、オートバイで事故に遭って、足を60針程度縫い、踵の骨がなくなるほどの大けがをし、歩けるようになるまで1年半ほどかかった。

・40代男性、中央区で被災。震災後は地下鉄の復旧工事に忙しく、ほとんど家に帰れなかった。

・50代女性、須磨区で被災。震災の時、数珠繋ぎのダンプカーがきたようなゴォーっという音がした後、突き上げられた。避難所となっていた近くの小学校でもらったのはパンと折りたたみのレインコートだけで、これは今も使わずにとってある。ご主人は舶載コンテナを運ぶ運転手で、震災で神戸港の岸壁が崩壊して仕事がなくなったが、補償・手当などはなかった。「家をなくした人に援助があって仕事がない人に援助がない」ことの不条理さを、少し涙目になりながら話された。

・70代女性、一人暮らし、長田区で被災。「長田の火事は今でも涙する」。訪問活動と同じ時間に行われていた、学生ボランティアによるふれあい喫茶と足湯から帰ってきて間もなくのお話し伺い。詐欺などの悪質訪問者が多いことに悩まされ、一人暮らしゆえの不安は大きい。週末ボランティアの訪問は予告チラシが入っていたのでドアを開けた。震災時、テレビが落ちてきて右手を負傷、出血が多く苦しみ、その傷が今も残っている。

4月12日

・70代男性、妻と2人暮らし、灘区で全壊。娘と孫の長男が亡くなった。自宅に車が突っ込んできたことがあったから「また、車が突っ込んだのか」と思った。天井から空が見えた。瓦が当たると危険なので布団を被った。はしごを使って外に出た。ご自身が書いた手記が、レインボーハウスに入っている。震災モニュメントにも記載され、書庫に入っている。

・70代女性、灘区で全壊。地震は最初で最後の驚きと恐怖の体験だった。「飛行機が突っ込んで来たのか」と思った。リウマチを患い、足は人工関節で治らない。政治、医療、神戸空港に

対する不満がある。秋田出身で、戦争や食糧難の苦労を知らない。ご主人は、優しく温厚な人だったが、3年前に他界。1日1本のカップ酒が毎日の楽しみ。身内で誰も犠牲にならなかったのはありがたいです。別れ際に一人一人と握手をした。

・80代女性、一人暮らし、西区で被災。震災時は水道や電気が止まったくらいだった。友人たちはお風呂の世話をしていた。去年の10月に5年かかって当たり入居した。セコムが完備しており、安心できることが何より嬉しい。旅行が趣味で、毎年、軽井沢に行く。海外旅行の旅先で、買った人形などが飾ってあり、部屋の中は西洋の雰囲気でした。終戦後、大連から何も持たずに引きあげてきてから、神戸に住む。

・70代夫婦、2人暮らし、全壊。ご主人は心筋梗塞で、奥さんは腎臓が悪く、共に病気持ちですが頑張っている、と支援シートにご自身で記入。

・80代夫婦、東灘区で全壊。震災直前に、各地の地震のニュースを聞き、懐中電灯やラジオなどを用意しており、被災当日より茶屋会館に避難。全壊した家では、高価なものはほとんどを盗まれていた。奥さんは、落下物により背中を負傷したが、病院では重症患者が優先され、診てもらえたのは1月後。ここに住んで10年だが、ご主人は園芸クラブ、奥さんは談笑会に参加し、恵まれた環境だと話された。

・70代女性、灘区で全壊。自分なりの運動を心がけ、健康に留意している。近所づきあいもあり、恵まれた環境に感謝している。

・70代女性、夫婦2人暮らし、灘区で全壊。被災後8月まで公園でテント暮らし。姫路とポートアイランドの仮設住宅を経て、この復興住宅には10年前に入居。仮設住宅への引越しの際にはボランティアが協力してくれた。一昨年の5月に甲状腺を手術。10月以降、清掃の仕事を続けている。若者に挨拶されると嬉しい。加齢による身体の不調もあるが、震災、病気全てがよい経験であると、前向きに暮している様子。

・70代男性、息子さんと2人暮らし、中央区で被災。東加古川の仮設住宅を経て、10年前に入居。奥さんは震災前に亡くなり、先日17回忌を行う。お酒が好きで、奥さんがいた時は日本酒(熱燗)であったが、今はもっぱら洋酒。食事、洗濯と家事全般をこなして息子さんをサポート。相撲のテレビ観戦とスパ温泉に出かけるのが楽しみで、近所の方に恵まれていると笑顔で話された。

・60代男性・70代女性、夫婦2人暮らし、灘区で全壊。書棚の下敷きになった奥さんをご主人が救助。ポートアイランドの仮設住宅暮らしを経て、10年前にこの復興住宅に入居。奥さんが、仮設住宅で喘息を患った上、義父母の介護疲れ等もありうつ状態に。ご主人は3日に1度老人ホームのお手伝いに行く傍ら、家事すべてを行う。子どもがいない上、高齢者医療保険などの負担が今後大きくなることもあり、将来に不安。奥さんは「(主人に)助けてもらわなければよかった」と言いながら、「本当に優しい人で感謝している」と話された。

4月26日

・80代男性、中央区で半壊。震災時は、半壊の家を修理して暮らし、水の確保に苦労した。本屋を営んでいたが全壊し、それをきっかけに閉店。金婚式を新聞のイベントで祝ってもらった奥さんを2年前に亡くし、家事の多くは自分で行うが、ヘルパーさんや、大阪・京都に暮らす娘さんが定期的に訪問してくれて助かると。戦争直後の苦労話も話され、1時間の上がりこんでのお伺い。今も狭心症のニトロを持っている。

- ・ 60代男性、灘区で全焼。年金や社会保険庁の問題など、現在の政治への不満をたくさん話す。
- ・ 90代男性、兵庫区で被災。奥さんが養護施設に入院しており、その費用が毎月8万円もかかり、年金だけの生活では苦しい。後期高齢者医療制度や介護保険などは何とかしてほしい。若い人は身体が弱いが、ご自身は入隊時に身体を鍛えたため、今も健康とのこと。東京からの訪問に感謝。全員で握手をしていただく。
- ・ 70代男性、灘区で全壊。週末ボランティアから年賀状。去年は脳梗塞で入院、それが原因で骨折もして、リハビリに懸命に取り組んだ。奥さんはアルツハイマーで入院中。年金記録漏れで、現在第三者委員会への申請手続きを進めており、行政のことなど不満だらけと、全てに不安あり。心の悩みを聞いてほしいので、是非また来てほしいと話された。1時間15分のお話し伺い。

5月10日

- ・ 60代、長田区で被災。夜勤で外にいて助かる。だが家具・衣類等は一切持ち出せず。50年前からギターを弾いている。4曲ほど弾いて歌って喜ばれる。仮設住宅は鹿の子台で大変だった。友達が出来行き来している。去年交通事故に遭い、腰を骨折、今も痛む。家賃が今月から上がって3万円になって困っている。とにかく癒しの1時間であった。
- ・ 80代男性、東灘区で全焼。店も家も失った。周りの家を助け歩いたら、うちがもらい火をして全焼した。地震の教訓は、余計のことはするなということ。父は94歳で亡くなったが、商売は手広く才能もあった。ご自身も元気で健康に恵まれていたが、5年前に胃の手術をして全摘出をし、以来水もグイッと一気に飲めなくなった。今は奥さんと2人暮らし。娘さんも2人よいところに嫁ぎ、よくしてくれる。12人兄弟の3人目。初め「ボランティアなんか要らない」と言っていたが、最後は握手で別れた。
- ・ 80代女性、灘区で被災。ご主人が倒壊した家に挟まれたが、救急車も来てくれない。近所の人がケガをした家族を病院に運ぶ時に連れて行ってもらった。病院では廊下にマットを敷いて、たくさんの人が寝かせてられていた。立花の病院に転院して、11月15日に亡くなった。阪神大水害、空襲、地震と怖い目にあったが、空襲が一番怖かった。焼夷弾が背負っていた赤ちゃんとお母さんとの間に落ち、スルメのようにぐると身体がまがって焼けたり、友人も沢山なくなった。赤い着物が好きと言う彼女は、たくさんの話しをしてくれた。50分お話し伺いの後、熱い握手。
- ・ 40代、東灘で文化住宅が半壊。井戸水・火は薪で風呂に入った。親戚が集まって助けてくれた。当時3〜4歳の娘と2人暮らし。こちらの住宅は住みやすい。水・電気・人の繋がりが大切。店もあるので。でも地震があると固まってしまう。救援物資をもらい感謝。20分のお話し伺い。
- ・ 80代、妹さんと2人暮らし、灘区の市営住宅で被災。今は膝に故障があまり出歩けない。でももう少し若い頃はボランティアをしていましたと、明るい声で話してくれた。
- ・ 80代男性、一人暮らし、東灘で全壊。6人兄弟。18歳で入隊、丸7年従軍、インドネシアやジャワ島で食料輸送にあたった。復員後実家で結婚。その奥さんは、2年間の人工透析の後、震災1年前に亡くなった。子どもは男3人。自分の命があるのは度胸のあった艦長のお陰と、海軍時代に話しが弾んだ。家賃が当初の7500円から24711円にあがった。お元気そうで、1時間半のお話し伺いの後、皆さんにとドリンクを沢山いただいた。
- ・ 40代女性、灘区で全壊。子どもの声がうるさいと追い出されたため、避難所は1日のみ。5月

に仮設住宅に移るまで兄の所などにいた。物資は自分で調達し、市からの援助はなし。今も近所づきあいはない。現在は派遣から契約社員となって働いているが、厚生年金加入により手取りが3万円減った。3年前脳梗塞を患い、脳の梗塞が大きくならないよう注意している日々。男性優遇社会に不満。母子家庭で子どもたちのため頑張っている姿に共感。ボランティアは余裕がないとできないとしみじみ。心に残るお話を伺った。

5月24日

・70代女性、夫婦2人暮らし、東灘区で全壊。小学校に避難し、六甲アイランドの仮設住宅で3年間生活。ご主人は肺炎を患い、5年程前に入院。退院後も体調が悪く、現在は認知症で、心臓と前立腺が悪い。週3日デイサービスや看護師に頼んでいる。介護経験から、介護は最初から頑張らないことだとわかった。ご自身も病院通いで、貧血、栄養失調、手足が浮腫んで、ご主人より多くの薬を服用している。

・90代男性、灘区で全壊。震災の2日後に弟さんが住む三木市に避難し、仮設住宅には住んでいない。8年前と去年と2回、脳梗塞を患う。普段は家族と一緒に暮らす。ヘルパーは頼んでいない。今まで何とか精一杯生きてきた。週1回、足のリハビリをしている。タバコは1日5、6本に抑え、お酒は飲まない。野球と相撲観戦が趣味とのこと。

・女性、夫婦2人暮らし、ご主人は70代、灘区で被災、自宅は傾く。学校に避難し、ポートアイランドの仮設住宅に入居、この復興住宅には補欠で入居。震災時は身体が弱く、寝たきり。現在、ご主人は10年前の脳梗塞で右半身が麻痺している。仮設住宅の時に、腸を手術してから体調が悪い。ヘルパーに頼むことを嫌がっていたが、やっと頼むことに理解した。ご自身も声帯と甲状腺にガンが見つかり、咳がひどく、坐骨神経痛を患っている。

・70代女性、一人暮らし、灘区で全壊。地震の時は立っていられなかった。家は崩れたが衣装だけ出せた。みんなえらい目に遭ったと思う。近所でもタンスが胸に倒れてきて亡くなった方がいた。消防車を呼んでも水が出なかったため、被害が広がった。高校の避難所から六甲アイランドの仮設住宅に移った。主人が震災の2年前に亡くなり、娘さんは20歳の時に亡くなった。隣近所の方ともよく話す。仮設住宅は楽しかった。今も元気と、訪問のあと向かいの部屋へ出かけた。入居したとき6800円だった家賃が今は25000円。

・70代男性、2人暮らし、中央区で借家が半壊。仮設住宅が当たらず、2年ほどマンションを借りた。8回申し込んで、この復興住宅にようやく当たった。震災まではスナック、そのあとは警備の仕事をしていた。何よりお元気で、地域のために活動していることに感動した。震災当時、三宮地下街では停電のため、食料品を捨てるというので、それをたくさんもらってうれしいこともあった。高校生がこの復興住宅に話を聞きに来るという。

6月14日

(未掲載)

6月28日

・80代男性、奥さんと2人暮らし。玄関の前に置いてある椅子に腰掛けてお話を伺う。レコード屋をしていたが「店はもうアカン」ということになった。軍隊に入ったが肺が弱く病氣除隊になったため、何か仕事をしないといけないと思い、ラジオ修理を習い商売を始めたら、蓄音

器も修理してくれとなっていったので、音楽が好きでレコード屋をしたのではなかった。「震災のことは、なあ、苦勞の話はようせん。」「仮設は鹿の子台で、いい所やった。玉ねぎやサツマイモ作ったなあ。」「釘の工場に勤めたが釘の箱持たれへんで4ヶ月で辞めた。それでもマラソン走ったで、三田マラソン。孫がいるのでいいとこ見せようと思って。最初は3kmで車に回収された。次は5km。去年は10km走って記念の品もらった。」

・70代女性、一人暮らし。震災の前日は有野台の倉庫に泊まり、2階のプレハブから降りた時に資材がガラガラと崩れた。電車が止っていて、自分の家へも帰れない。中央区の摩耶インターの近くにあった会社も被災。倉庫で1ヶ月暮した。東灘区から息子たち一家が避難して来て、4畳半のところに5人も寝起きするのは大変だった。それから六甲トンネルを歩いて会社へ行った。50人ぐらいがやっと住める3階で暮していた。ご飯も炊くのに大きな鍋がないので1斗缶を2つに切ってご飯を炊いてお握りを作った。米や缶詰が大阪や色々な所から差し入れられた。

「災害って大変よ～」といわれた。「自分が人を大切にしなければ、人は自分を大切にしてくれない。今が一番幸せ」と、話せば話すほどに笑顔が増えてゆくのが印象的な90分のお話し伺いだった。

・70代女性、ご主人(80代)と2人暮らし、灘区で被災。車で3晩すごす。阪神大水害、神戸大空襲、阪神大震災の3つの災害を経験する。兄は23歳で戦死。自分の中2で母を見送る。兄が出征する時、『蘇州夜曲』、『夜来香』などをマンドリンで奏でてくれた。指輪を遺して死んだが、その遺品も震災前の家の品々とも、全てダメになった。クラシックが好きで、今は韓国映画が大好き。かつて貿易会社のタイピストをやって高給を取っていた。ご主人の会社が倒産、全てを失い、今の住宅に住んでから、何も求めず暮している。昔の写真を懐かしく拝見した。大変楽しい2時間のお話し伺い。

・60代女性、一人暮らし。灘区で全焼。急いで2階から飛び降りて、足と膝を痛めた。1入でいるのでストレスがたま一方。子どもと孫が北区に住んでいて、行ったり来たりしてくれている。昨日は病院へ行ってきたので、今日は疲れて寝てしまっていた。犬を飼っているので、おかげで慰められ、いつも癒されている。犬の面倒をよくみられないので、美容院へ連れて行って、シャンプーなどをしてもらっている。自分の美容院代より高価で6000円ほどかかる。

・70代男性、一人暮らし。先月胃が破れて倒れ、15日ほど入院、今は点滴している。震災の時は月6000円程の市営住宅で、この復興住宅が当たるまでいた。奥さんが亡くなった後は、子どもたちとも別居、一人暮らしの心細さがある。集金に来た方が見つけて下さって助かったのがありがたかった。お話し伺いに行ったのに、クリームやビールをいただく。昔は船関係の仕事をして定年後も68歳まで働いていた。細身で、なかなか心に1本通ったものが感じられた。心楽しいボランティアの喜びを教えて下さった2時間のお話し伺い。

・70代男性、兵庫区で全半壊。出張で福井にいて、ニュースで震災を知った。神戸へ帰ってみたら、「危ないので住むな、解体する」と紙が張ってあった。震災のことは忘れはしないが、今後のことが大事。今は生活保護を受けている。震災後会社が倒産し、私のような者は雇ってくれない。昭和9年生れで、終戦の年は小学校5、6年だったので、ろくな教育も受けていない。長崎生れで3つの時父に連れられて神戸に来た。妹達は母親と田舎に残ったのか、そこのところは判らない。家族連れを見るとうらやましかった。鬼も菩薩も自分の心次第と思うが、今は人が怖い。一人で能書きを言って暮しているのは幸せ。趣味はカラオケ。カラオケで友人も出来るし行動の幅も広がる。5時過ぎの訪問。もう一度来ますとお別れする。

7月12日

・10代男性、家族と一緒に暮らす。被災時は幼かったため、震災のことは何も覚えていない。誰もケガ人はいなかったが、家は全壊だったと聞いている。小学校に入学する前まで東加古川の仮設住宅に入居していた。仮設住宅のときは友達と遊んだ記憶しかない。そのときの友達の一人とは今でも付き合いがある。

・50代男性、母親と暮らす。母親は、タンスの引き出しの下敷きになり、あばら骨を折るケガをした。歳の離れた妹の結納の前日に被災したため、結納物がバラバラになり、母はたいそう悲しんでいた。避難所生活はしておらず、支援物資が届かず、灘までトラックでもらいに行った。震災後は加古川で土方仕事をしていた。被災当時は、お金よりも命が一番と思った。また、物質的には豊かだと思ったが、均等に配分されていないと感じた。今は、自分だけが何かして欲しいとは言えず、健康第一で食べていけばいいと思っていると話された。

7月26日

・40代男性、中央区で被災。その日は朝5時45分に『目覚ましテレビ』という番組があつて、ふっとついたので起きた。とたんに4つのタンスが倒れてきて、それを蹴飛ばしたので助かった。その日はやとりんごを1つ手に入れた。近所のコンビニはシャッターを閉めていた。こんな所に住んでるとコミュニティのなさを痛感する。いま定年になった人や60歳・70歳の人とか、いま自治会の会長の人の経験が大切だと思う。いま何か街がおかしい。店がつぶれていくし、安心して住める所ではない。道路作りより人の整備が大切だったのではと思う。

・60代女性、一人暮らし、中央区で被災。長く住んだ市営住宅は、ここより丈夫な造りで震災の被害もなかったが、建て替えのため最近この復興風宅に移ってきた。65歳の定年まで勤め、マンション販売などをしていた。30分ほどお話を伺う。訪問したボランティアの一人と同年とわかり話が弾んだ。

・60代女性、一人暮らし。長田の近くで被災、仕事も失う。小学校の避難所→姉の家→息子宅→ポートアイランドの仮設住宅→この復興住宅へ。姉・息子宅は気を遣うので長居せず、復興住宅入居を有利にするため仮設住宅へ。被災当時は高齢者でなく現役世代で、仮設・復興住宅入居で優先されないため、希望者が少ない仮設住宅、竣工が遅く入居が先になる復興住宅を選んだ。1年前まで元町で仕事をしていて、この復興住宅から25分ほど歩いて通った。今でも三宮までは歩いて、長田へは三宮から電車で、買い物に行く。西日が入るわけではないが、隣接の建物ができてからは(風が遮られ)照り返すため暑くなった。今は年金暮らし。家賃減免申請で市役所に行ったら、生活保護受給者の方が多くもらっているように思われた。

8月9日

・70代男性、東灘区で全焼。水が出ず消防もなすすべなく、残骸をじっと見ているしかなかった。避難所では電気が使えず不便した上、天井が高いため寒く、朝しもやけになったことも。仮設住宅には行かず県外の公営住宅へ。仮設住宅解消が優先される一方で、県外避難者が後回しにされたようで、復興住宅になかなか当たらなかった。受験勉強真っ最中の初参加者が、さまざまな話題を引き出そうとした姿が印象的なお話し伺いであった。

・50代女性、中央区で被災。その時は子どもも小さく怖がってよく泣いていた。一番困ったの

は水がないことで、寒さにふるえながら2人の子どもとともに順番を待った。住んでいた文化住宅が古く死んでいると思われたため、友人がみな様子を見に来てくれたのがうれしかった。

・70代女性、今は一人暮らし。東灘区で被災。3階建ての2階で、1階の人が5人亡くなった。2階も傾いて逃げようにもドアが曲って開けられなかった。しばらくして近所の人がドアを叩いて「おりますか？ 無事ですか？」と言ってくれたので、車イスに乗っていたご主人はお風呂の窓を壊して、そこからドアを工夫して作った板にのせて外へ出してもらった。その日は小学校の廊下で寝た。3日目まで何も食べ物がなかった。3日目に本山のすし屋が酢めしをおにぎりにして売っているのを買って食べた。ご主人は京都の老人ホームが一時預ってくれるというのでそこへ行った。週末は電車に乗って京都まで通った。よく京都まで1人で行けたと今になって思う。仮設住宅へは一番に入れてもらった。車イスの主人と仮設住宅で暮らすのは大変だった。ご主人は脳梗塞を3回起こして、入居後亡くなった。お風呂とトイレに苦労した。避難所となった小学校のトイレは水がなく、その後行った避難所も建設中の老人ホームだったのでトイレがなく、禁止されても、しょうがないから建物の影で用を足すから悲惨なものだった。震災から30日後に始めて入浴できた。寒い中銭湯にじっと並んで、やっと入れたと思ったら熱いお湯が少ししか入ってなくて、赤ん坊には熱くて入れない。ぬるくしようとしても洗い場の水がちよっとしか出ないから役に立たなかった。その後自衛隊がきて、ようやくお風呂にゆっくり入れた時はうれしかった。「今度震災に遭ったら？」と聞くと「とにかく今度は行列の一番に並ぶ。お父さんの面倒を見ていて…」と、笑いながら言う声は、1時間半のお話し伺いをときほぐしてくれた。

・80代男性、灘区で全壊。仮設住宅を経て、1999年にこの復興住宅へ。鉄の塊をロールにかけて板にする圧延の仕事を36年した。定年後まだ若いからと、その頃あったポートピアの造園の仕事をした。仮設住宅にあった柿の木をこの建物の南の角に植えたら、大きくなって去年から実をつけた。今年もたくさん青い実がついている。花桃の鉢も植えた。いちじくも大きくなった。年金はめいっぱいもらっているが、家賃が27000円、介護保険料が12000円(2ヶ月)、健康保険料が25600円(2ヶ月)引かれる。軍隊で奉天に行ってシベリア抑留で3年過ごす。その間パン工場働いて丸々太ったとか、楽しそうに話しを続けられた。

8月23日

・80代男性、奥さんは入院中で、しばらく一人で暮している。先の訪問が長引いていたため夕方になってから訪問。予告チラシを見たので待っていたとのこと。夕方にもかかわらず、上がらせていただいた。被災状況などを聞く前に先方から「回っていてどうですか、なかなかこうやって話を聞けることは少ないでしょう。(この復興住宅の住人は)なかなか人には会いたがらない、色んな業者が来てそれが10年間続いているから警戒しているんですよ。日本にはなかなか悩みがあるから聞いてあげようかという土壌がないんじゃないかな。お回りになっていただけるのはありがたいんだけど、おそらくは8割くらいがNoだろう」とおっしゃられた。また、「新潟中越地震の際に山古志の村長さんが、避難するんだったらみんな一緒のところ避難しようじゃないかと言った、それが正解なんですよ」と語った。神戸の場合は被災範囲が広く、被災者が分断されたことでその後の再建に格差が出ている現状を再認識する訪問であった。

・70代女性、一人暮らし。通り沿いの文化住宅で被災し避難所へ。他の被災者が次々と仮設住宅へ移っていったが、結局8月によりやくポートアイランドの仮設住宅へ。その仮設住宅も8軒の

長屋で最後の一軒になるまで3年間入居、出て行く直前は夜になると真っ暗で不安だった。10年前この復興住宅に入居した。入居の際、長男と同居しようと兵庫県にかけあったが、長男は被災当時神戸に住んでいなかったため、同居を認めてもらえなかった。「震災で一番つらい思いをしたのは、血のつながった親子がバラバラにされたこと、こんなことがあっていいんでしょうか、ずっと納得がいきませんでした」と悔しそうに話した。上がり込んで70分程度の訪問。

・80代 男性、夫婦2人暮らし。中央区で全壊、住んでいた借家は再建されず。復興住宅は、孫がきたときや仏壇の置き場所のため3DKを申し込んだらなかなか当たらず、2DKに申し込んでやっと入居できた。震災に遭ったが「神戸は第二の故郷」として気に入っている。訪問したボランティアの一人が同じ南国出身とわかり、うちとけたお話し伺いとなった。

・70代夫婦、中央区で全焼。その後ポートアイランドの仮設住宅へ。ご主人は「頑固者」風で奥さんはニコニコして包容力ある似合いの夫婦。すぐお部屋に上げていただき、コーヒーをご馳走になった。以前「水道局のほうから来ました」と、ガスレンジのフィルターの販売員がきた。設置するというので、タダかと聞くと3千円というので断って帰した。「あんなのは100円ショップでも売っている」とご主人はカンカン。それから布団の販売。これは、景品で釣って、個人宅に集まってもらい、売るそうだ。「集まっているので来てください」と言って、呼びにきたそうだ。セットで35万円。めったに買う人はいないようだが。良い雰囲気では話できた。後ろ髪を引かれる思いで、お礼を言って帰った。

9月13日

・80代夫婦、灘区で全焼。しあわせの村の仮設住宅で過ごした後、建て直した灘区の自宅に戻り、6年前にこの復興住宅に越してきた。奥さんは絵画、ご主人は時代物やサスペンス物の読書と、夫婦共に好きな趣味に熱心で、元気に暮している様子が伺えた。

・70代夫婦、灘区で全壊。東灘区の仮設住宅を経て、残り2、3軒になったときに当選し、9年前にこの復興住宅に越してきた。三宮まで徒歩20分の便利な立地に感謝している。食事はご主人がつくっており、仲良く暮している様子。毎日「ありがとう」の言葉を唱えて、幸せに感謝しているとの言葉が印象に残った。

・60代男性・70代女性夫婦、灘区で半壊。ご主人は働いており、年金受給はまだなため、生活は苦しい。昨年まで寝たきりのお母さんが存命で、妹と共に約10年介護していた。クラシックをはじめ歌が好きで、いくつか歌を披露したら喜んでいただけた。

・60～70代夫婦。ご主人が脳梗塞のため、言葉が不自由で、奥さんがつきっきりで看病している。苦勞されている様子だったが、笑顔で対応いただいた。

・60代女性、東灘区で全壊。仮設住宅に入れず、各地を転々として、約7年前にこの復興住宅に越してきた。市営住宅居住者の方が優先的に仮設住宅に入れた上、入れなかった者への援助も不十分で、市の対応に不満があった。被災後、生きていて何になると思うこともあった。ご主人は40代で脳腫瘍を患い、昨年26年の闘病を終えた。奥さんが長い間家族を支えてきて、悲しみはなかったが、寂しさを感じている。奥さんも狭心症を患っているが、近所の方の面倒を見る活動に携わっているとのことで、元気そうな様子。

・男性。60代女性の息子さん。お母さんがパートのためご不在で、留守番をされていた際に訪問。震災時は、お母さんが東灘区、息子さんが灘区で被災し、それぞれ全壊。すぐにお互いを搜索したため、すれ違いになり、再会出来たのは3～4日後(張り紙はしていた)。お母さんは奈

良に避難した後、ポートアイランドの仮設住宅で数年暮し、約10年前からこの復興住宅で一人暮らし。一方、息子さんは被災直後ボランティア活動に。その際の仲間が、東京都のある区の議員をしており、応援の一環で、当時の様子を語る演説をしに上京したこともある。防災意識は各地で高まっているものの、あの被災体験を知る者としては、あの規模の震災になると、生き残れたことが幸運であったと思うしかなく、生き残れた者がネットワークをつくり、いかに助け合っていけるかが大事だと感じる。

9月27日

・60代女性。伺った際、元気で大きな犬とともに出迎えてくれた。この犬とは震災前から連れ添っている。ご主人は結婚後から約20年間、病気の後遺症により半身不随で、自力では生活していけない状態であった。震災の際には認知症の症状も見られた。約2年前に肺炎を患い亡くなられた。その間誰にも頼ることなくつきっきりで介されたため、外との接触はほとんどなかった。現在も買い物、犬の散歩、通院以外は外に出ない。「旦那さんが亡くなられてさみしいですか？」の問いに、「一人で読書を楽しみ、夫の世話に煩わされない自由で気ままな生活を送れているので満足だ」と答えた。誰とも関わらない生活を送られているということで多少気がかりではあったが、顔色が良く生き生きして、しっかりした強い女性だと見受けられたので、少し安心した。

・60代男性、一人暮らし、東灘区で被災。訪問を告げるとニコニコ笑って家の中へ。震災の時は居酒屋を経営。商店街は鉄骨造りが多くてほとんど崩れなかったが、近所でも木造の古い家が全壊し、梁の下敷きになり亡くなった方がいた。震災が起こるまでボランティアなんて、思っていたが、それは誤解だった。また「ありがとう」を本当の意味で「ありがとう」と言っているのを聞いた。ボランティアはやらないと意味がない。居酒屋を再開するタイミングに悩んだ。JRの開通をきっかけに開業したが、被災して困っている人がいるのに何で開業するんだと言われると思ったら、店に集まってくれたお客さんが元気になったと言ってきてよかった。震災後しばらくして脳梗塞で入院、商売も廃業。入院中に医師が生活保護の書類を整えてくれたため、退院後すぐ手続き。昔は軽音楽をしたこともあり、あの宝塚の大舞台にも立った。レコードのジャケットを見せ、今も英語の歌詞カードを作るなど、多趣味の様子。歓迎されて1時間半ほどの訪問となった。

・70代女性、一人暮らし、灘区で被災。インターホンを押しているときに帰ってこられた。最初は「ボランティアには用がない」と言われたが、「被災地だけでも…」と、訪意を告げると中へ招き入れていただいた。避難所生活の後、ポートアイランドの仮設住宅で3年間暮らす。この復興住宅へは4年前に入居。被災直前までスナックを経営。おいしいコーヒーをごちそうになった。今でも元気な様子で、自転車で三宮まで出かけることも。「ただ、あんまりお客さんもないから、今日は来てくれてありがとう」と話してくださった。30分程度のお話伺いのあと、握手をして別れた。

・70代男性、夫婦2人暮らし、兵庫区で文化住宅の借家全壊。「妻は震災以来、身体の具合がおかしくなり、4年目に入院以来今日に至ります。薬がなく、ただ入院して死期を待つ状態です。ここは5年目に当り引越してき、それまでは被災地を転々とし、そのため妻はすっかり体調を崩してしまいました。私は幸い勤め先がありましたので何とか耐えましたが…その勤め先も先日退職、今は後片付けのため、週3日ほど出ています。」（留守のため、ご自身で記入された支

援シートをいただいた)

・70代女性、一人暮らし、中央区で全壊。ヘルパーさんの後に出てこられて、ドアの取っ手を持ってようやく話しができる様子。震災の時は大変だった。何ももたずに飛び出した。気がついたら青い空が見えた。近くの小学校に避難した。この復興住宅へ入居してから身体が悪くなり、エレベーターの前へ行こうとしても2~3歩しか歩けないようになった。家族は弟がいたが病気で亡くなって私1人。向いの棟やこちらの棟の人が親切で助かっている。

・70代女性、夫婦2人暮らし、中央区で全壊。倒れてきたもので怪我をした。避難所に入れず、マンションを借りた。震災前は若かったが、年を取ってきて悪いところが出てきて、それが気がかり。今日も気分が悪いので寝ていた。この建物の周りの植物の世話を2~3人でしている。「春にはあじさいが見事です、良かったら見に来てください」と。

・70代男性、夫婦2人暮らし、須磨区で被災。住めないことはなかったのに住んでいたら、役所に「危ないから出てくれ」といわれ、東灘区のマンションを借りて引越した。今後のことでは、やはり心配なのはお金と健康。糖尿病と高血圧があり、毎日のように点滴を受けている。「楽しく2人で暮していけたら」と話された。笑顔のすてきな方でした。

10月11日

・60代夫婦、東灘区で被災。東灘区の仮設住宅で4年程過ごしたが、周りの方々が去り、最後の住人となって、仕方なくこの復興住宅に引っ越してきた。以前は大型バイクに乗っていたが、6月にケガをしたため、行動範囲も狭まり、友人が少なくなりつつあるのが寂しい。

・70代男性、一人暮らし、中央区で被災。その後ポートアイランドの仮設住宅へ行き、この復興住宅へは10年前に入居。一人暮らしだが、散歩に励むなど、元気に生活されている様子。

・70代男性、中央区で全壊。被災直後は小学校に避難したが、風邪をこじらせ入院。入院したことで、避難所での苦労は少なくて済んだ。その後、息子さんと2人暮らしをしていたが、息子さんの結婚を機にこの復興住宅に入居。バイクに乗って買い物や、ポートアイランドの息子さんの住まいに遊びにいくなど、元気な様子。腫瘍の手術で夏に入院したものの、ヘルパーさんなしで暮している。洋服の仕立て業を営んでいたが、震災で失業。幼少期から足を悪くしていたこともあり、新しい仕事に取り組めなかった。「地震は人生を狂わす」と話す一方、「全てを震災のせいにしてはいけない」ともおっしゃられ、前向きに暮している様子が伺えた。約1時間の上りこんでのお話伺い。

・60~70代男性、灘区で被災。自宅は無事だったものの、震災後の周囲の家屋の改修・撤去工事の際、重機が誤って家屋の一部を撤去。市側へ申し出るも、何ら補償してもらえず。震災直後は、たいへんな方ばかりで、諦めざるを得なかった。しかし、生きる上では色々なことがある、いま、食べていければそれでいいと、達観した様子。波乱万丈の半生を話していただき、1時間半のお話伺い。

10月25日

・80代男性、中央区で被災。労働組合の組合長を12年やって、会社にいうべきことを言い続けてきた。息子さんやこの復興住宅に駐在するヘルパーさんが、低賃金で不安定な雇用にあるので「今の若者はかわいそう」。高齢者が多い住民にはとりわけ「言葉をかけることが大切」。住宅入口前のベンチに座り、住民の方と談笑する中でお話を伺う。

・70代女性、一人暮らし、東灘区で全壊。助け出されるまで6時間ぐらい生き埋めになっていた。京都府の息子さん宅に避難、走る電車を見ると「あれに乗れば帰れるのに」と涙が出た。北区の仮設住宅では、寒い冬に風呂の湯が冷えたり凍結した水道管が破裂したりして困ったが、周囲の人やボランティアの優しさが救いだった。戦後の引きあげで苦労したので、震災のときは落ち着いていた。震災前からのリウマチに加え、近年はさまざまな病気を抱えている。昨年、バス停で遊んでいた子どもがぶつかってきて骨折、骨がつきにくく今年再入院、今もリハビリが続く。ご自身で記入された支援シートをもとに、住宅前のベンチでお話を伺う。

11月08日

・60代女性、兵庫区で全壊。表札の出ていないお宅のインターホンを押すと、週末ボランティアの一部メンバーと今でも交流のある方が出てきた。震災では住居も店も全壊、その後2度の大手術を乗り越えられた今、「こうして自分が元気で、主人も働きながら旅行や趣味で楽しんでくれているのは幸せだ」、「近くで孤独死があったとき、自分がその人に何もしてあげられないのが口惜しくて残念だ」、「声かけは大事だ、声をかけられた人はパアッと明るくなる」と言われる。再訪を約して、90分のお話し伺いを終わる。

・50・60代夫婦、兵庫区で被災。若いときはタクシーの運転をしていた。色々な人と会って人嫌いになり、あまり人と話すのは得意でない。夫婦で散歩することもあるが、奥さんの方が早足なので最近では別々に散歩する。ベランダと玄関入り口には綺麗な草花がいっぱい。北区のしあわせの村の近くにいたが、早くこの復興住宅に入居した。お子さん2人が近くに住んでいるので安心のよう。

・80代女性、一人暮らし、灘区で全壊。2階建ての長屋の2階に居住、朝まだ布団の中にいたら、ドンツときて1階に2階が落ちた。1階では亡くなった人もいた。近くの学校に敷布団と掛布団とを担いで避難した。布団のない人に「私も入れて」と言われ、断れないので、1組の布団で女性ばかり5人で寝た。この復興住宅へは、5回目の抽選に当って、避難所となったその学校から入った。仮設住宅は避難した学校の校庭で、そこでは煮炊きもできないので、出来合いのものや弁当を買ってきて食べたりしていた。ご主人は1年ほど前に亡くなって、今は一人暮らしなので、ご飯の用意もしなくていいし気が楽。二十歳で結婚して50年、ご主人は朝家を出たらいつ帰ってくるかわからない人だったので、自分もあちこちの病院で働いた。朝テレビを見て、1日の出来事がわかったら、後は何もしない。どの新聞もとらない。子どもは2人。7歳違いの姉は頭が良いので羨ましい。友達が多い。それは人の気持ちが判るようになったから。明るく実際の年齢にはには見えない方。

・70代女性、灘区で全壊。血圧が高い以外は病気なし。お孫さんの所へ色々買い物してゆくの楽しい。そして今が一番楽しいような気がすると、明るく喋ってくださり、こちらまで嬉しくなった。

11月22日

・80代女性、一人暮らし、東灘区で被災。玄関に通じるふすまが開かなかったので、窓の鉄格子の間から辛うじて脱出。高知の実家に避難したが兄夫婦に気兼ねしてまもなく神戸に戻ったら、避難中に自宅が解体され、家財道具などを持ち出せなかった。戦中から戦後にかけて、洋裁の内職で徹夜したり、自分の食べる分がなくても子どもに食べさせたりするなど、苦労しながら

5人の子どもを育て上げた。そうした経験から「自由とわがままの違いが解っていない」など、「今の家庭教育はなっていない」と厳しい意見も。内職で貯めたお金も夫の葬式代で消え、今は年金だけで暮らす。腰を痛めて外出に歩行器を使う以外は、長年病気知らずで、顔色や肌のつやなど、その年齢とは思えないほどのお元気さだが、家族でにぎやかに過ごした日々を懐かしみ、「このごろしんどい」と、自立生活の継続に不安をのぞかせる。

・60代女性、夫婦2人暮らし。兵庫区で全壊。揺れと同時に子犬を抱いて立ち上がると、それまで寝ていた場所に家具が倒れてきた。子どもが2階から叫ぶ。ご主人は無事だ。左隣の家は人が埋まっている。小さな鋸を出したがかなわない。右の角の家は親子3人が母親に抱かれたまま亡くなった。メモを取らずに聞いていたために、記憶は正確ではないが、1時間半のお話しは、地震2年後に脳の病気で倒れてからご主人がしゃんとなられ、今日までやってこられたこと、人の命の大切さなどだった。

12月13日

・70代夫婦2人暮らし、中央区で全壊。都心近くの商店街で長年家具屋を営んでいて、今もご主人が製作した、長年大切に使われてきた数多くの家具に囲まれて暮らしている。店の跡地を月極駐車場にしているが、周囲がさびれていて、空きが出ると次がなかなか決まらない。避難所での最初の夜は気が張っていて寒さを感じなかったが、次の夜は寒さで震えが止まらなかった。ポートアイランドの仮設住宅では、いろいろな人に助けられてありがたかったが、夏の暑さ、ベニヤ板のホルマリン、大きなネズミが動き回る物音などに悩まされた。4年前に脳梗塞で倒れ右半身が不自由となり、外出することがいっそう少なくなったご主人にお話し伺いをしていたところに、買い物から帰ってきた奥さんが加わり、新聞2社の取材が入りながらの、2時間半余りにわたるお話し伺いとなった。

・70代女性、一人暮らし、中央区で被災。自宅は住めた。この復興住宅へは入居2～3年。生まれは北九州の小倉、35年ほど前に神戸に来た。震災後、ご主人と協議離婚。今は生活保護で暮らす。以前は年末、貯金が少しできたが今はほとんど残らない。うつ病の薬を飲んでおり、記憶がはっきりしない、物忘れがひどくなった。ヘルパーさんに薬を1回ごとに分けて小さなビニール袋に入れてもらっている。書類もケースに入れて保管している。今日が何日か解らなくなるので、カレンダーに毎日斜線を引いて消している。腰が悪く、足が不自由で障害1級、整形外科に通院し、灘区のデイケアサービスにも行っている。この復興住宅にもデイケアがあるが器具がなく、リハビリができない。毎日、ヘルパーに来てもらっているが、これまで1日2時間だったのが1時間半に減り、買い物だけで、料理する時間がないので、いつも出来合いのものばかりだ。栄養も偏る。一人で不安だ。誰とも話していない。12階に一人話ができる人がいるだけだ。今日は話ができてうれしい、と言って若い女性ボランティアの顔を触ったり、揉んだりした。（週末ボランティアのチラシを再度渡し、東條代表の電話番号を赤いボールペンで囲った）帰るとき、ドアの外まで見送られ、何べんも握手をし、別れを惜しんだ。1時間ほどの上がりこみ。

12月27日

・80代男性、一人暮らし、早朝から勤務していた中央区のパン工場で被災。東灘区の自宅は難を免れたが、一緒に暮らしてきた奥さんが、10年の人工透析の末、亡くなったあと、家主から退

去を求められたため、この復興住宅に入居して2年。4年前の脳出血のため右半身に後遺症があり、週2回ヘルパーに来てもらっているが、奥さんを看病している間、家事全般をしてきたことから、今も自分でこなしている。血圧降下剤などの薬をたくさん出されているが、のどがかわいたり痰がからんだりしてしんどいので、1日3回のところ1回しか飲まない。家庭に自分の居場所がなく16歳で軍に志願、終戦後軍属として乗り組んでいた船で神戸に上陸、乗組員仲間と持ち出した物資をもとに一儲けしようとしたが失敗した。大変きれいに片付いて掃除が行きとどいたお部屋にあげていただいて50分近くにわたるお話し伺いとなった。